

令和5年11月27日  
鳥取市立病院  
鳥取市保健所

## 【事業対象となる保健医療圏】

東部保健医療圏

## 【事業の実施主体】

鳥取市立病院

## 【背景にある医療ニーズ】

## ○現状

- ・東部二次医療圏域において医療の機能分担や連携が課題となっており、地域医療支援病院（県立中央、鳥取赤十字、鳥取市立）は圏域の中核的病院としての機能を有し、連携・協力し機能分担もしながら、その推進に取り組んでいる。
- ・その中で、結石破碎治療においては、平成5年度に鳥取市立病院が結石破碎装置を導入してから今日まで、圏域内唯一の体外衝撃波結石破碎治療を実施する医療機関としての役割を担い、圏域内の他の医療機関に加え圏域外からも多くの紹介患者を受け入れている。

表）体外衝撃波結石破碎装置実施件数

年度	実施	内紹介	紹介内訳				算定数	診療報酬
			県中	日赤	生協	その他		
R1	133	108	21	35	0	52	59	11,388,690
R2	94	68	10	10	2	46	42	8,106,700
R3	135	105	13	22	1	69	52	10,036,880
R4	111	75	9	9	0	57	43	8,454,100
R5 4-9月	33	20	0	10	1	9	15	2,895,240
総計	506	376	53	86	4	233	211	40,881,610

※同一患者に複数回の治療が必要となる場合があるため、実施数と算定数は一致していない。

## ○課題・ニーズ

- ・体外衝撃波結石破碎装置の法定耐用年数は6年と定められているが、当院で使用している装置は平成26年度に導入しており、設置から約10年が経過しており老朽化が進んでいる。
- ・この装置による結石破碎治療は最初の1回しか診療報酬が算定できないため非常に収益性が悪く、導入経費と保守料を診療報酬でまかなうためには現状の利用実績からすると16年以上の継続使用が必要となるが、故障が度重なる状況からこれ以上の使用は困難である。
- ・特に令和5年度については、故障により治療ができない状況や性能低下により石が割れにくい事象が発生している。そのためこの装置による治療の中止や、他の医療機関からの紹介を断るケースが頻発しており、地域の医療機関や患者にご迷惑をおかけしている。
- ・この装置による治療が出来なくなった場合、同様の治療を受ける際には他圏域への通院が必要となる。また圏域内では経尿道的結石除去手術が必要なケースが増加することも予想され、患者への負担が増すこととなる。
- ・東部二次医療圏内で急性期医療を担う主要病院における機能分化・連携をさらに維持・推進し圏域内の各病院の特色ある医療機能を維持していくためには、今回提案している結石破碎

装置のような収益性の低い医療機器の整備・更新について、地域医療介護総合確保基金のような制度で支援していくことが重要と考える。

【要望事業の内容】

事業名：東部医療圏唯一の体外衝撃波結石破碎装置の更新事業

事業内容：東部医療圏の結石治療における医療の質の向上に向け、従来の装置に比べてより深い結石にも短時間で効率的に対応可能な体外衝撃波結石破碎装置を導入する。

【アウトプット指標】

- ① 治療時間の短時間化による患者負担の軽減
- ② 体外衝撃波結石破碎装置の性能向上による現在の装置では治療できなかった患者の減少
- ③ ②に伴う経尿道的結石除去手術の減少

【評価指標】

- ① 実施件数及び紹介件数の増
- ② 再手術件数の減少

【事業費】

95,000,000 円（税込み 104,500,000 円）

【所要額の内訳（税抜）】

体外式結石破碎装置	84,100,000 円
付属品	10,790,000 円
既設機器撤去	110,000 円
計	<u>95,000,000 円</u>